



友垣よ

練馬区立石神井西中学校だより
令和六年一月十日 第九号
校長 井上 貴 推

校 歌 に 想 う

今年もそれぞれの思いを胸にお正月を迎えられたことと思います。「一年の計は元旦にあり」と言われますが、今年実現したことや、やっていきたいことなど、一人一人違っても目標に向けて、日々を大切に過ごすことはみんな一緒です。生徒の夢や希望の実現に向け、今年も石神井西中学校の職員一同、力を尽くします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨日の始業式でも全員合唱による校歌が体育館に響き渡りました。その感動の余韻に浸りながら、改めて本校の校歌を自分なりにじっくり味わってみました。そして、校歌に込められた学校創成期の人々の想いを馳せました。

1 石神井西中学校「校歌」を読んでみましょう

校 歌

那須 信吾 作詞 平尾 貴四男 作曲

平井 哲三郎 編曲

一、武蔵野の

真青の空に立つけやき
理想の旗をかかげよう
自由と自治の
希望と光の

石神井西中 我等の母校
石神井西中 我等の母校

二、石神井の

流れのほとり咲く花の
文化の郷土つちかおう
平和と愛の

石神井西中 我等の母校

2 遠近の妙に感じる想い

私が一番に感じるのは、広い視点からだんだん焦点が絞られていくなあと感じます。詩の中で見事に遠近法が仕掛けられています。分かりやすいのは、「それぞれの冒頭の言葉で、
「武蔵野の」↓「石神井の」↓「学びやの」と遠影からだんだん近影になっていきます。まず、大きな視点である理想の姿を掲げ、徐々に焦点化していくことで、それを実現するための一つ一つをクロース・アップしているようです。

それを感じると、学校を作ったときの理想は「自由と自治」、まさに本校が長年学校の中心においているこの言葉が学校創成時の理念を表しているといえると思います。その理想の学校を作り上げるために一人一人が忘れてはいけない思いが、2番に込められている「平和と愛」、その気持ちをしっかりと心に刻んで「友垣と力を合わせる」ことで、石神井西中は集う生徒一人一人にとって、3番にある「希望と光」にあふれる学校となる：という思いが込められているなとしみじみ感じます。

3 学校だよりの表題「友垣よ」への想い

「友垣」とは、簡単に言い換えれば「友達」という意味です。ただし、この言葉には、垣根を作るときに使ったことに由来していて、「一度結んだ後に解いたりするのは困難な垣になぞらえ、再び解いたりしないという、友との交わり」という思いが込められているのです。我々は、この地球上で、人間だけで生きていくことはできません。「真青の空に立つけやき」も「流れのほとり咲く花」も、人間が生きていくためには大切であり、彩りでもあります。まして、一人だけの力で生きていくことなど不可能であるし、難しいと思います。「窓べに集う友」と力を合わせるからこそ、人生は希望と光に満ちていくのです。まさに「友垣」が集い、「平和と愛」にあふれ、「自由と自治」が輝く場所が、校歌に込められた石神井西中学校の姿です。その理想に向かって、今年の一年が、皆が力を合わせて羽ばたいていける充実した時空間となりますよう、祈念して一年のスタートとしたいと思います。